

2023年度 学校経営計画及び学校評価【ヴェリタス城星学園中学校・高等学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念に加え、フランシスコ・サレジオや教皇フランシスコの教説についての学びを深め、その成果をカリキュラムの中で具体化する。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。
外部の資源を可能な限り活用しながらきめ細やかな生徒対応を行い、生徒の自己肯定感・自尊感情を向上させる。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
教職員の研修や自己研鑽を積極的に支援するとともに、教職員間の研究会・親睦会の機会を増やす。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
学園が持つ資源の効率的配分・利用を教職員全体で検討する。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
「城星ファミリー」との関係性を深め、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索する。一方で、本校がリカレント教育の場としての役割を果たすことをめざす。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

| ア. 自己評価アンケート結果と分析 | イ. 学校関係者評価委員会からの意見 |
|--|---|
| <p><評価が相対的に高かった10項目></p> <ul style="list-style-type: none">○施設設備の行き届いた清掃○教職員の気持ち良い挨拶○全体的な本校への満足○緊急時の適切な情報伝達○個人情報への適切な取扱い○保護者の相談への適切な対応○教育内容の公開○学校行事の適正性○教員による生徒への寄り添い○教育理念の分かりやすい説明 <p>(満足度86%以上)</p> | <p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2023年度学校評価に関する検討は2024年4月13日(土)に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <ul style="list-style-type: none">・授業の一環で企業人に講義をしてもらったり、キッチンカーの頻度を増やして地域に開放したりするなど、外部からの知見を取り入れ、より地域に発信できるようにしていければ良いのではないか。・本学園で過ごした年数だけでも社会で活躍できるように育てるとともに、生徒の意志で専門知識を求める先として大学進学を希望する場合に学校がしっかりサポートしていくという姿勢でよいと考える。 |

| ア. 自己評価アンケート結果と分析(続き) | イ. 学校関係者評価委員会からの意見(続き) |
|---|---|
| <p><評価が相対的に低かった5項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○クラブ活動と学業他とのバランス ○地域との連携 ○いじめ防止の取組 ○教育活動におけるICT活用 ○家庭学習の十分さ <p style="text-align: right;">(満足度61～72%)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果をしてみると、幼稚園・小学校・高校の連携に関する満足度が低い。幼小高の連携を深めていくために、例えば高校生が、他校種の授業のお手伝いをするなど、多校種が同じ敷地にある強みを活かした連携ができれば、学園全体が盛り上がるのではないだろうか。また、以前実施された大阪星光学院の合宿施設の見学や、修学旅行時の姉妹校訪問など、子どもたちや教職員の交流を深めることも意義深いだろう。 |
| <p><アンケート総括></p> <p>例年同様、施設及び情報管理関連の評価が相対的に上位を占めており、継続した強みになっている。本年度の特徴的な点は、教職員の気持ちの良い挨拶と教育内容の公開に関する評価が大きく向上している点である。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「学びの森」の授業の際、学校の先生になりたいという生徒には、小学校で教壇に立ったり、幼稚園で絵本を読んであげたり、といった体験ができるような体制があれば有意義であると思う。 ・「学びの森」は今年が3年目になるが、生徒たち自身が自らの選択により、今年の「学びの森」で必要なことについて認識を深めている。生徒たちは選ぶ力を持っており、生徒が教員の意識を変えてくれる。学校が新しくなっていくことについて、生徒が力になってくれる。 ・生徒には、いろんな大人から学んでもらいたい。生徒自身も識別できる目を持っている。生徒には自信を持って社会で活動できるようにしてほしい。 ・今後の高校共学化においては「キャリア」をコース名に冠することとしたが、特に「キャリア探求コース」は、「学びの森」の時間などを通じて、社会に開かれた環境の中で幅広い体験をし、未来に繋いでいくという発想だ。開かれた学校として様々な人と交流し、社会に出た際にすぐに力を発揮できるような学びを目指さなければいけない。 ・学園の教職員の仲が良ければ、子ども達の雰囲気も良くなると思う。大人が先に示していくことが大事であると思う。本日も「学びの森」に関する提案をいただけたので、今後ブラッシュアップしていく計画の中でもご協力をいただきたい。 ・学校評価アンケートについて、保護者各位には回答のお手間をかけているところでもあるので、今まで以上に教員はこのアンケート結果の内容をしっかりと確認し、自身に反映させ、行動を変えていくことが求められる。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

※ 満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

※ 「年度評価」の記載内容は学校評価アンケートの結果を分析したうえで、当該目標にかかる活動全般を評価したものである。満足度80%以上で○、同60%以上で△、それ未満で×の表記としている。

| 中期的目標 | 中期行動計画 | 年度行動目標 | ねらい | 関連する学校評価アンケート項目及び満足度 | 年度評価 |
|---|--|---|-----------------|--|--|
| 1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。 | ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念に加え、フランシスコ・サレジオや教皇フランシスコの教説についての学びを深め、その成果をカリキュラムの中で具体化する。 | (1)アシステンツァの心を育て、家庭で、学校で、通学途中での弱者への小さな親切を実践する。 | bontàの実践 | 学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。(満足度83.3%) | (○)Assistenzaの心が育ち、互いに助け合いながら小さな親切を実践していた。 |
| | | (2)「今のこの時間」を充実したときとして能動的・主体的に過ごそうとする心の育成を目指す。 | libertàの実践 | 学校は、教育目標(アシステンツァ・ファッチョイオ)に沿った教育を行っている。(満足度81.9%) | (○)自ら主体的に行動できるようになってきた。 |
| | | (3)ファッチョイオの精神で、喜んで何事にも積極的に取り組む行動力を育成する。 | allegriaの実践 | 教員は、子どもに日々寄り添うよう努めている。(満足度87.1%) | (○)以前よりも主体的に喜んで取り組むことができるようになった。 |
| 2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。 | 外部の資源を可能な限り活用しながら、きめ細やかな生徒対応を行い、生徒の自己肯定感・自尊感情を向上させる。 | (1)ミマモルメでの確かな情報を発信する一方、小さな対話や面談で、心の繋がりを大切にする。 | 心の繋がり | 学校は、保護者に対して緊急時(地震・台風等)ミマモルメなどを通して情報を適切に伝えている。(満足度94.4%) | (○)面談、クラスルームなどで情報交換できている。 |
| | | (2)新しい学校作りやルール作りに生徒の主体的な参加を促し、大切なものを見失わないヴェリタス城星学園を創造する。 | 新しい学校 | 学校は、教育理念に基づき生徒指導を実践している。(満足度76.4%) | (△)生徒会を中心に学校のルール変更に取り組んでいた。 |
| | | (3)過去の教育相談事例などの記録を匿名データとして整理し、学園教職員間でアシステンツァの意識を高め、その情報を共有する。 | アシステンツァのための情報共有 | 教員間での連携が図られている。(満足度76.8%) 学校は、個人情報適切に取り扱っている。(満足度94.4%) | (△)データの統一が不十分なため、十分な情報交換は出来ない。 |

| 中期的目標 | 中期行動計画 | 年度行動目標 | ねらい | 関連する学校評価アンケート項目及び満足度 | 年度評価 |
|--|--|---|--------------|---|---|
| 3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。 | 教職員の研修や自己研鑽を積極的に支援するとともに、教職員間の研究会・親睦会の機会を増やす。 | (1)生徒の希望や豊かさの実現のため「学びの森」講座の積極的な刷新をする。 | 生徒の主体的学び | - | (○)秋学期の「学びの森」に新しいものを加え、生徒の関心を広げることができた。 |
| | | (2)園児・児童・生徒同士の交流を実現するため、中高生の積極的な企画立案を促す。 | 中高生からの発信 | 学校は、教育理念に基づき生徒指導を実践している。(満足度76.4%) | (△)城星フェスタでは企画し動くことが出来、他校種とも関わる機会が増えた。他の機会にも同様の積極性を培いたい。 |
| | | (3)サレジオファミリーの学校間交流を積極的に実現する | パン種(原動力)になろう | - | (△)教職員はミッションパートナーの集い、姉妹校見学、また、生徒も姉妹校との交わりに代表者が参加することができた。 |
| 4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。 | 学園が持つ資源の効率的配分・利用を教職員全体で検討する。 | (1)「オラトリオとしての学校」のあるべき姿を求めて、積極的に全体研修会や交流会をもつ。 | 教職員の交流 | - | (△)研修などでは教職員同士、関わりをもつことができた。 |
| | | (2)総合スポーツ教育センターとの連携を実現する。 | スポーツを楽しむ | 学校のクラブ活動は、学業その他の活動とのバランスを含め適正に行われている。(満足度71.6%) | (△)運動部は協力を得られているが、全生徒がスポーツを楽しむまでには至っていない。 |
| 5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。 | 「城星ファミリー」との関係性を深め、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索する。一方で、本校がリカレント教育の場としての役割を果たすことをめざす。 | (1)70周年記念行事等で培われた「城星ファミリー」の親密性を一層大切に推し進める。 | 城星ファミリーの活性化 | - | (○)城星フェスタ、同窓会、新成人の集いなどOGとの積極的な関わりが持てた。 |
| | | (2)「城星友の会」との連携をもとに保護者の交流の場を作り、保護者に寄り添う大人の学びの時間を作る。 | 保護者へのアシステンツァ | 教職員は、保護者の相談に適切に対応している。(満足度91.4%) | (○)教職員による「城星友の会」への参加が少なかったものの、保護者からは相談対応に関し評価をいただいた。 |
| | | (3)姉妹校や教会関係、地域社会の人びととの情報交換を活発に行い、未来志向の積極的意見交換の場を作る。 | 現実を見て動く | 学校は、地域との連携を図っている。(満足度71.4%) | (△)静岡サレジオ、サレジオ国際と交流することができたが、教会や地域社会の人々との関わりをもつことができなかった。 |